

## ⑫公開特許公報(A)

昭54-86521

①Int. Cl.<sup>2</sup>  
C 09 B 25/00識別記号 ⑤日本分類  
23 A 0庁内整理番号  
6859-4H

④公開 昭和54年(1979)7月10日

発明の数 3  
審査請求 未請求

(全 11 頁)

## ⑭メチン染料

①特 願 昭53-150129

②出 願 昭53(1978)12月6日

優先権主張 ③1977年12月7日③西ドイツ  
(DE)④P 2754403.2⑦発明者 ハンス・ユルゲン・デーゲン  
ドイツ連邦共和国6143ロルシュ  
・シラー・シュトラッセ6  
同 フランツ・フアイヒトマイル  
ドイツ連邦共和国6700ルードウ  
イツヒスハーフェン・ムンデンハイマー・シュトラッセ158  
⑦発明者 クラウス・グリヒトール  
ドイツ連邦共和国6702パート・  
デュルクハイム1ゼーバツヘル  
・シュトラッセ96アー  
⑦出願人 バスフ・アクチエンゲゼルシャ  
フト  
ドイツ連邦共和国6700ルードウ  
イツヒスハーフェン・カール  
ボツシューストラッセ38  
⑦代理人 弁理士 小林正雄

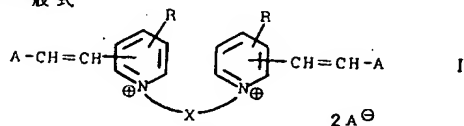
## 明 細 書

## 発明の名称

メチン染料

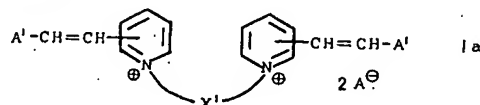
## 特許請求の範囲

## 1. 一般式



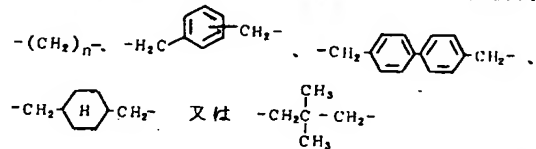
(式中Aは同一でも異なつてもよく、それぞれアリール基又はヘテロアリール基、 $A^\ominus$ はアニオン、Rは水素原子、メチル基又はエチル基、そしてXは橋頭原子を意味し、その際メチン基は $\alpha$ 位又は $\beta$ 位に結合している)で表わされるメチン染料。

## 2. 一般式



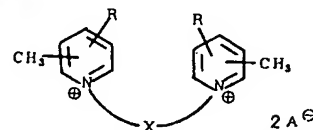
(式中A'は塩素原子、メトキシ基、エトキシ基、メチル基もしくはエチル基により置換されていてもよいN,N-ジ置換アミノフェニル基、イン

ドール基又はカルバゾイル基、そしてX'は次式



の残基を意味し、ここにnは2~10の数を意味し、 $A^\ominus$ は前記の意味を有する)で表わされる特許請求の範囲が1項に記載の染料。

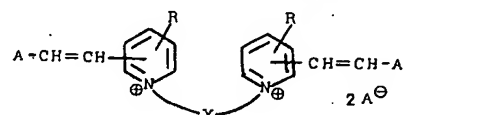
## 3. 一般式



で表わされる化合物を、一般式

A-CHO

(これらの式中の各記号は後記の意味を有する)で表わされるアルデヒド又はその誘導体と縮合させることを特徴とする、一般式

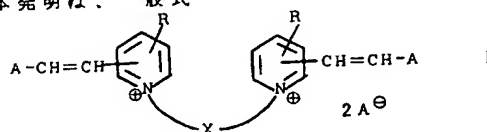


(式中Aは同一でも異なつてもよく、それぞれアリール基又はヘテロアリール基、 $A^{\ominus}$ はアニオン、Rは水素原子、メチル基又はエチル基、そしてXは橋状員子を意味し、その際メチン基は $\alpha$ 位又は $r$ 位に結合している)で表わされるメチン染料の製法。

4. 特許請求の範囲が1項に記載の化合物を紙又はアニオン性に変性された繊維の染色に使用する方法。

#### 発明の詳細な説明

本発明は、一般式



(式中Aは同一でも異なつてもよく、それぞれアリール基又はヘテロアリール基、 $A^{\ominus}$ はアニオン、Rは水素原子、メチル基又はエチル基、そしてXは橋状員子を意味し、その際メチン基は $\alpha$ 位又は $r$ 位に結合している)で表わされる化

合物に関する。

残基Aは、例えば下記のものである。場合に  
より弗素原子、塩素原子、臭素原子、シアン基、  
ニトロ基、水酸基、アルコキシカルボニル基、  
場合によりN-置換されたカルバモイル基、アル  
キル基、アルコキシ基、アミノ基もしくは置  
換アミノ基により置換されたフェニル基、場合  
によりアルキル基、アルコキシ基、水酸基、カ  
ルボキシ基もしくは置換アミノ基により置換  
されたナフチル基、ステリル基、フリル基、チ  
エニル基、ビリジル基、インドリル基、ベンゾ  
フリル基、ベンゾチエニル基、ピラゾリル基、  
オキサゾリル基、チアゾリル基、トリアゾリル  
基、オキサジアゾリル基、チアジアゾリル基、  
ベンゾイミダゾリル基、インダゾリル基、ベン  
ゾオキサゾリル基、ベンゾチアゾリル基、カル  
バゾリル基、フェノチアジニル基又はフェノキ  
ザジニル基。

個々の残基Aは、例えば下記のものである。  
クロルフエニル基、ブロムフェニル基、シアン  
フェニル基、ニトロフェニル基、メトキシカル

ボニルフエニル基、エトキシカルボニルフエニ  
ル基、ヒドロキシルフエニル基、アミノカルボ  
ニルフエニル基、ジメチルアミノカルボニルフ  
エニル基、ジエチルアミノカルボニルフエニ  
ル基、メチルフエニル基、エチルフエニル基、シ  
クロヘキシルフエニル基、フェニルフエニル基、  
メトキシフェニル基、エトキシフェニル基、ブ  
トキシフェニル基、フェノキシフェニル基、ア  
ミノフェニル基、メチルアミノフェニル基、エ  
チルアミノフェニル基、ベンジルアミノフェニ  
ル基、ブチルアミノフェニル基、フェニルアミ  
ノフェニル基、シアニエチルアミノフェニル基、  
ジメチルアミノフェニル基、ジメチルアミノク  
ロルフエニル基、ジメチルアミノメチルフエニ  
ル基、ジメチルアミノメトキシフェニル基、ジ  
メチルアミノニトロフェニル基、ジメチルアミ  
ノカルボメトキシフェニル基、ジエチルアミノ  
フェニル基、エトキシジエチルアミノフェニル  
基、ジプロピルアミノフェニル基、ジー $n$ -ブ  
チルアミノフェニル基、ジベンジルアミノフェ  
ニル基、ジー $\beta$ -シアニエチルアミノフェニル

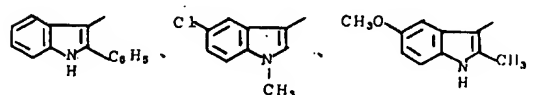
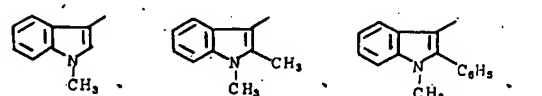
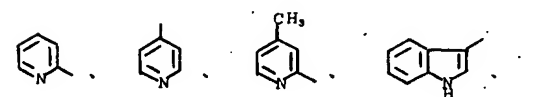
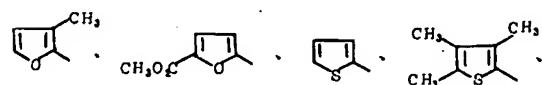
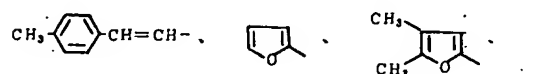
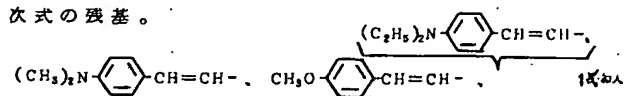
基、ジー $\beta$ -メトキシエチルアミノフェニル基、  
N-メチル-N-エチルアミノフェニル基、N-  
ブチル-N-メチルアミノフェニル基、N-  
メチル-N-ベンジルアミノフェニル基、N-  
エチル-N-メトキシベンジルアミノフェニル  
基、N-シクロヘキシル-N-ベンジルアミノ  
フェニル基、N- $\beta$ -シアニエチル-N-ベン  
ジルアミノフェニル基、N- $\beta$ -エトキシエチ  
ル-N-ベンジルアミノフェニル基、N- $\beta$ -  
メトキシカルボニルエチル-N-ベンジルアミ  
ノフェニル基、ジベンジルアミノクロルフエニ  
ル基、ジベンジルアミノメトキシフェニル基、  
ジベンジルアミノメチルフエニル基、N-メチ  
ル-N- $\beta$ -シアニエチルアミノフェニル基、  
N-エチル-N- $\beta$ -シアニエチルアミノフェ  
ニル基、N-プロピル-N- $\beta$ -シアニエチル  
アミノフェニル基、N-ブチル-N- $\beta$ -シア  
ニエチルアミノフェニル基、N-メチル-N-  
 $\beta$ -メトキシカルボニルエチルアミノフェニル  
基、N-メチル-N- $\beta$ -エトキシカルボニル  
エチルアミノフェニル基、N-メチル-N- $\beta$ -

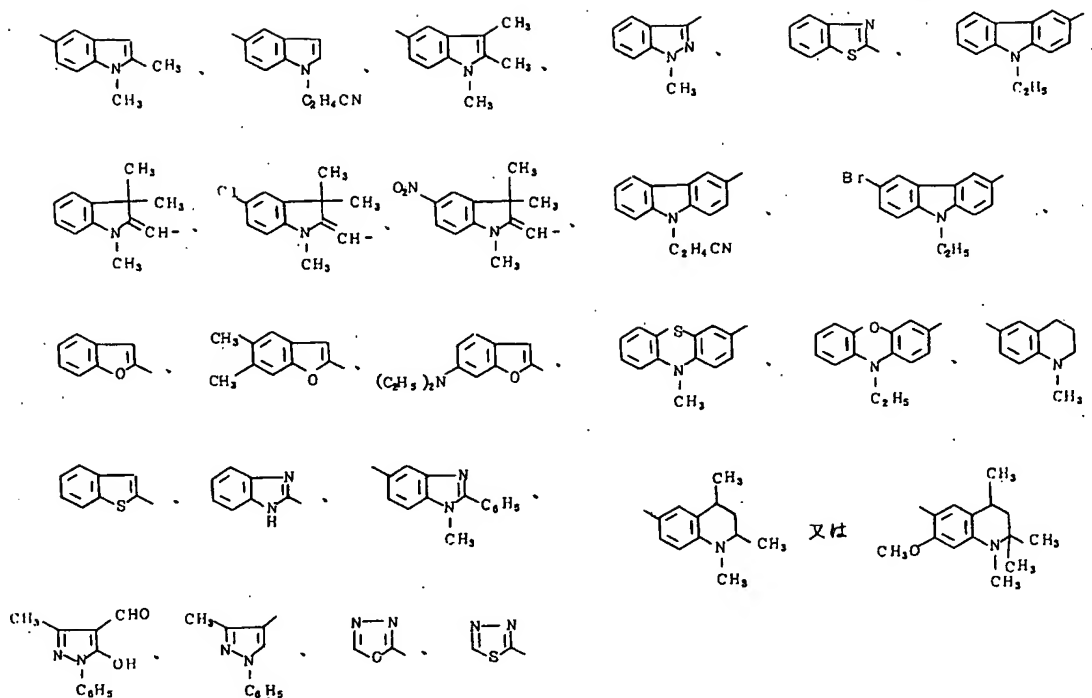
ーカルバモイルエチルアミノフェニル基、NーメチルーNーβージメチルカルバモイルエチルアミノフェニル基、NーエチルーNーβーメトキシカルボニルエチルアミノフェニル基、NーエチルーNーβーエトキシカルボニルエチルアミノフェニル基、NーエチルーNーβーカルバモイルエチルアミノフェニル基、ピペリジノフェニル基、ピロリジノフェニル基、モルホリノフェニル基、チアモルホリノフェニル基、ピペラジノフェニル基、Nーメチルピペラジノフェニル基、Nーベンジルピペラジノフェニル基、NーメチルーNーフェニルアミノフェニル基、NーシアンエチルーNーフェニルアミノフェニル基、ジフェニルアミノフェニル基、NーメチルーNー4ーエトキシフェニルアミノフェニル基、NーメチルーNー4ーメトキシフェニルアミノフェニル基、NーメチルーNー4ーメチルフェニルアミノフェニル基、NーメチルーNー2ーメチルフェニルアミノフェニル基、NーメチルーNーシアンメチルアミノフェニル基、NーエチルーNーシアンメチルアミノフェニル基、

NーベンジルーNーβーシアンエチルー又はNーシアンメチルアミノフェニル基、NーメチルーNーβーアセトキシエチルアミノフェニル基、NーエチルーNーβーアセトキシエチルアミノフェニル基、NーベンジルーNーβープロポキシエチルアミノフェニル基、NーエチルーNーβーオキシエチルアミノフェニル基、NーメチルーNーβーオキシエチルアミノフェニル基、ジメチルアミノヒドロキシフェニル基、ジエチルアミノヒドロキシフェニル基、ジベンジルアミノヒドロキシフェニル基、ジメチルアミノアセチルアミノフェニル基、ジエチルアミノアセチルアミノフェニル基、NーエチルーNーβージメチルアミノエチルアミノフェニル基、NーメチルーNーβージメチルアミノエチルアミノフェニル基、NーベンジルーNーβージメチルアミノエチルアミノフェニル基、NーβーシアンエチルーNーβージメチルアミノエチルアミノフェニル基、NーβーメトキシカルボニルエチルーNーβージメチルアミノエチルアミノフェニル基、NーβーオキシエチルーNーβー

ージメチルアミノエチルアミノフェニル基、NーβーメトキシエチルーNーβージメチルアミノエチルアミノフェニル基、NーエチルーNーβージエチルアミノエチルアミノフェニル基、NーエチルーNーβージベンジルアミノエチルアミノフェニル基、NーエチルーNーβーピペリジノエチルアミノフェニル基、NーベンジルーNーβーモルホリノエチルアミノフェニル基、NーエチルーNーβートリメチルアンモニウムエチルアミノフェニルクロリド基、NーメチルーNーβートリメチルアンモニウムエチルアミノフェニルクロリド基、NーメチルーNーβージエチルベンジルアンモニウムエチルアミノフェニルクロリド基、NーベンジルーNーβージメチルベンジルアンモニウムエチルアミノフェニルクロリド基、NーエチルーNーβーピリジニウムエチルアミノフェニルクロリド基、ジメチルアミノナフチル基、ジエチルアミノナフチル基、ジベンジルアミノナフチル基、トリルメチルアミノナフチル基、エトキシフェニルメチルアミノナフチル基、ヒドロキシナフチル基、ヒ

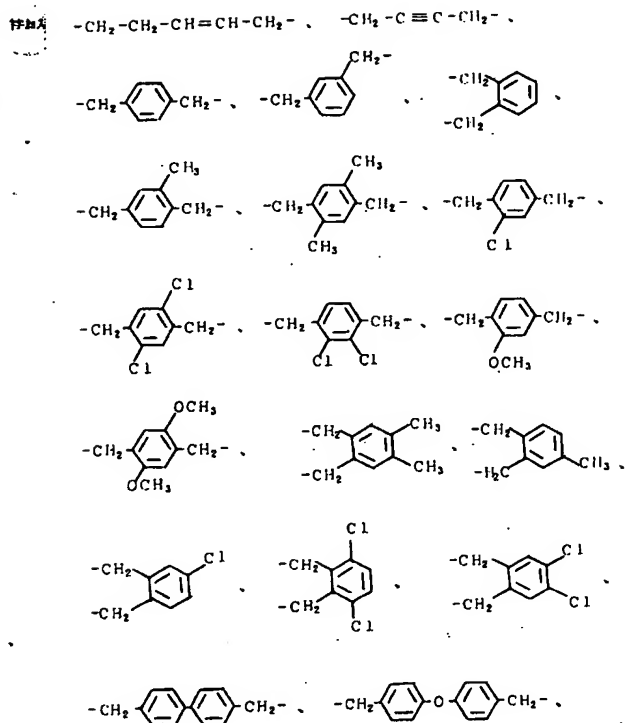
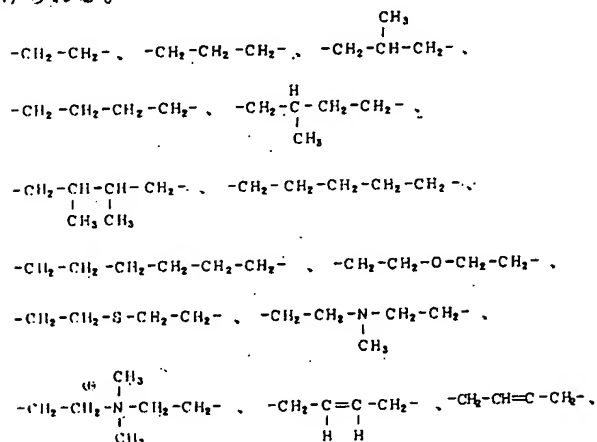
ドロキシメトキシカルボニルナフチル基、メトキシカルボニルメトキシナフチル基、ならびに次式の残基。

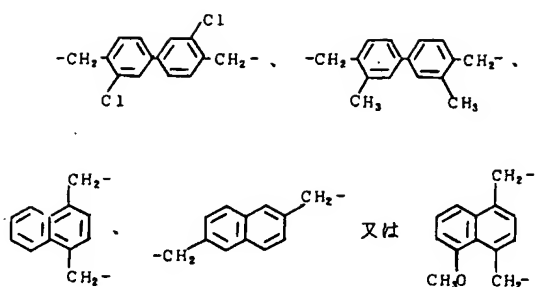




状  
格、員子 X としては、脂肪族残基ならびに芳香族残基及び異種原子を含有する残基が用いられ、例えば場合により酸素原子、基  $-NH-$  もしくは硫黄原子により中断されたアルキレン基、場合により置換されたフェニレン基、ジフェニレン基もしくはナフチレン基又は場合により異種原子を含有する飽和のシクロアルキレン基があげられる。

X のためには個々には例えば下記のものがある。

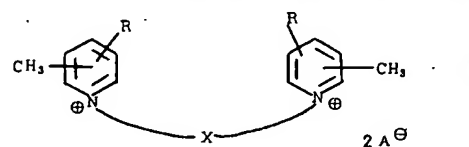




アニオン  $A^{\ominus}$  としては、例えば有機又は無機のもので、個々には例えば下記のものがある。弗化物、塩化物、臭化物、沃化物、過塩素酸塩、硫酸水素塩、硫酸塩、重硫酸塩、アミノ硫酸塩、硝酸塩、磷酸二水素塩、磷酸水素塩、磷酸塩、炭酸水素塩、炭酸塩、メト硫酸塩、エト硫酸塩、シアノ酸塩、チオシアノ酸塩、四塩化亜鉛酸塩、硼酸塩、四弗化硼酸塩、酢酸塩、シアノ酢酸塩、ヒドロキシ酢酸塩、クロル酢酸塩、アミノ酢酸塩、メチルアミノ酢酸塩、ジ-及びトリクロル酢酸塩、2-クロルプロピオン酸塩、2-ヒドロキシプロピオン酸塩、チオ酢酸塩、グリコール酸塩、チオグリコール酸塩、

エノキシ酢酸塩、トリメチル酢酸塩、バレリアン酸塩、バルミチン酸塩、アクリル酸塩、修酸塩、マロン酸塩、クロトン酸塩、こはく酸塩、くえん酸塩、メチレンビスチオグリコール酸塩、エチレンビスイミノ酢酸塩、ニトリロトリ酢酸塩、フマル酸塩、マレイン酸塩、安息香酸塩、メチル安息香酸塩、クロル安息香酸塩、ジクロル安息香酸塩、オキシ安息香酸塩、アミノ安息香酸塩、フタル酸塩、テレフタル酸塩、インドリル酢酸塩、クロルベンゾールスルホン酸塩、ベンゾールスルホン酸塩、トルオールスルホン酸塩、ビフェニルスルホン酸塩及びクロルトルオールスルホン酸塩のアニオン。

式 I の化合物を製造するためには、一般式

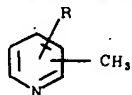


で表わされる化合物を、一般式

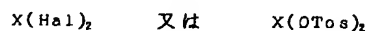


(これらの式中の各記号は前記の意味を有する) で表わされるアルデヒド又はその誘導体、例えばインモニウム塩と縮合させることができる。

式 II の化合物は、例えば一般式



(式中 R は前記の意味を有する) で表わされる化合物を、一般式



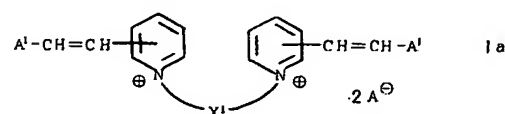
(式中 X は前記の意味を有し、Hal は塩素原子又は臭素原子、そして Tos はトリルスルホン基を意味する) で表わされる化合物と反応させることにより得られる。

反応の詳細は実施例に記載される。

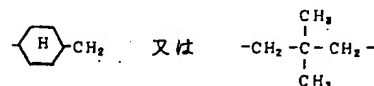
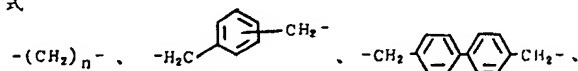
式 I の化合物は、紙又はアニオン性に変性された繊維の染色のために特に適している。紙には、普通の堅牢性を有する黄色ないし帯青赤色の染色が得られる。新規な重化された染料は、木質含有紙料及びざらし紙料への高い親和性に

より優れており、すなわち染料の大部分は紙に染着する。従つて新規化合物はその使用において特に環境親和性でかつ経済的である。

特に重要な化合物は、一般式

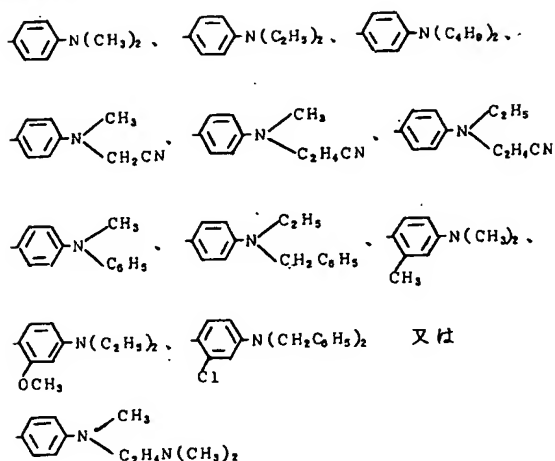


(式中 A' は場合により塩素原子、メトキシ基、エトキシ基、メチル基もしくはエチル基により置換された N,N-ジ置換アミノフェニル基、インドリル基又はカルバゾリル基、そして X' は次式



の残基を意味し、ここに n は 2 ~ 10 の数を意味し、 $A^{\ominus}$  は前記の意味を有する) で表わされるものである。

好ましいアミノフェニル基は、例えば次式の  
残基である。

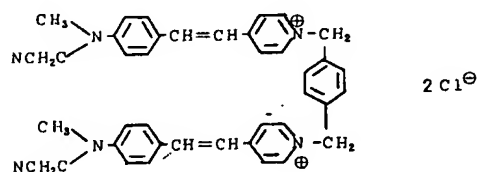


n は好ましくは 3 ~ 6 の数であり、キシレン  
基の場合には p-化合物が重要である。

下記実施例中の部及び%は特に指示しない限り  
重量に関する。

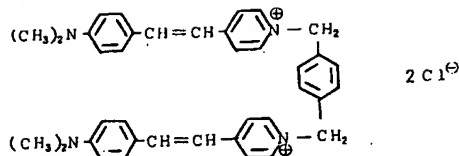
熱して還流させる。130℃で5分間煮沸した  
のち、四級塩の結晶化が始まる。15分間攪拌  
したのち冷却し、アセトン1ℓで希釈する。続  
いて吸引ろ過すると、水に易溶性の無色の生成  
物150部が得られる。塩素分析：計算値19.  
6%、実測値18.6%。

#### 実施例 2

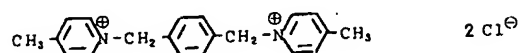


N-メチル-N-シアソメチル-p-アミノ  
ベンズアルデヒド16.2部及び実施例1からの  
四級塩9部を、エタノールに加熱しながら溶解  
する。ピペリジン0.5部を加え、1時間還流加  
熱し、次いでアセトンで希釈し、析出した沈殿  
を吸引ろ過する。この染料は木質含有紙料及び  
さらし紙料を橙色色調に染色し、廃水はほとん  
ど無色である。

#### 実施例 1



p-ジメチルアミノベンズアルデヒド15部  
及び次式

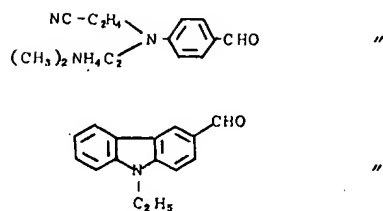
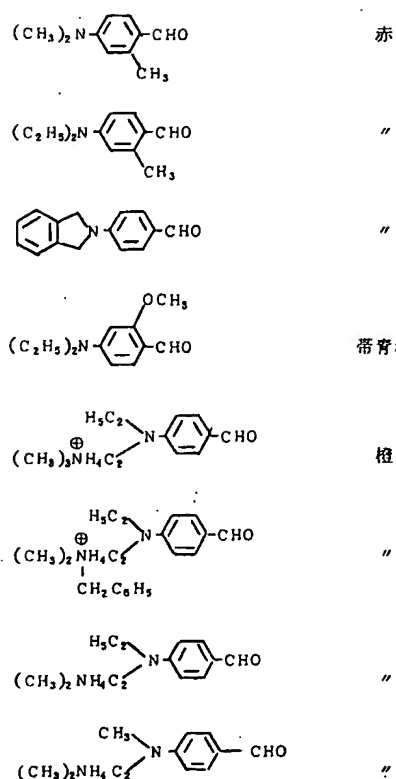


の化合物9部を、30%酢酸30部中で3時間  
還流下に加熱する。冷却したのち吸引ろ過し、  
乾燥すると、水溶性の良好な赤色の染料粉末が  
得られる。この染料は木質含有紙料及びさらし  
亜硫酸セルロースを赤色色調に染色する。廃水  
はわずかに着色しているにすぎない。

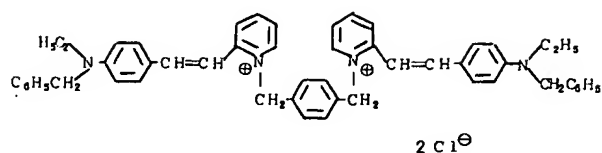
使用したメチレン活性化合物は、次のように  
して製造される。p-キシレンジクロリド87.  
5部及びア-ピコリン93部をエチレングリコ  
ールモノメチルエーテル500部中で徐々に加

同様の操作により、次表に示すアルデヒドと  
反応させると、対応する染料が得られる。

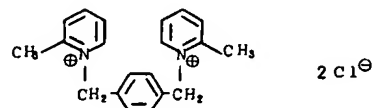
アルデヒド	色調
	帯赤黄
	"
	赤
	橙褐
	赤
	橙褐



実施例 3



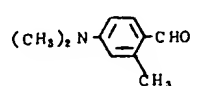
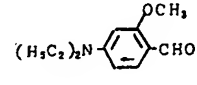
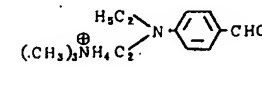
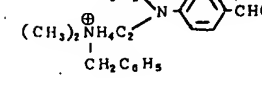
次式

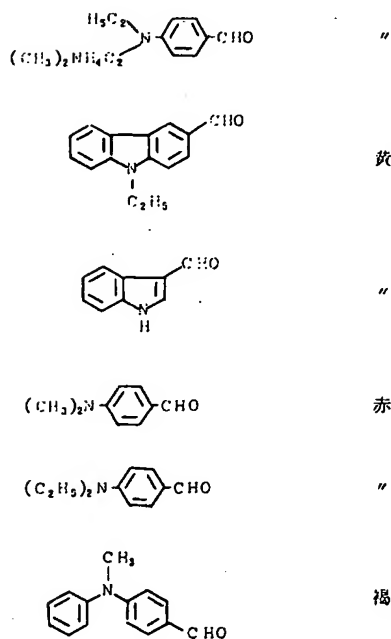


の化合物 9 部及び N-エテル-N-ベンジル-  
p-アミノベンズアルデヒド 12 部を、エチレ

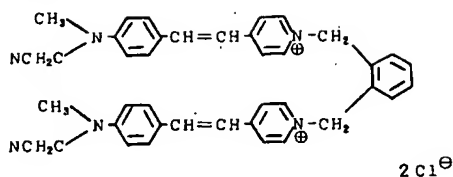
ングリコールモノメチルエーテル 2.1 部中で  
ベリジン 0.5 部を添加して 2 時間煮沸し、液状  
染料を分別する。この染料は紙を橙色色調に染  
色する。使用した四級塩は、実施例 1 と同様  
にして p-キシリレンクロリド及び α-ピコリン  
から製造される。

次表に示すアルデヒドを用いて反応させ、そ  
して縮合生成物を用いて紙を染色すると、表  
中に示す色調が得られる。

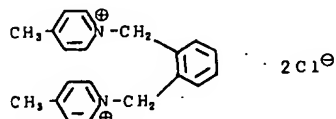
アルデヒド	色調
	橙褐
	褐
	橙
	"



実施例 4



次式



の四級塩 9 部及び N-メチル-N-シアンメ  
ル-p-アミノベンズアルデヒド 16.2 部をエ  
タノールに溶解し、そしてビベリジン 0.5 部を添  
加したのち 2 時間煮沸する。アセトンで希釈し、  
吸引ろ過して乾燥したのち、融点 110~11  
2℃(分解)の染料 25 部が得られる。この染  
料は木質含有紙料及びさらし亜硫酸セルローズ  
を橙色に染色する。廃水はわずかに着色してい  
るにすぎない。

する。冷却したのち析出した沈殿を吸引ろ過し、  
メタノールで洗浄して乾燥すると、染料 20 部  
が得られる。この染料は紙を橙色に染色する。

四級塩は次のようにして製造される。α-ピ  
コリン 37 部及び 1,4-ジブロムブタン 43 部  
をエチレングリコールモノメチルエーテル 10  
0 部中で 5 時間還流加熱する。冷却したのちア  
セトンで希釈し、吸引ろ過すると、融点 254  
~256℃の水溶性物質 64 部が得られる。

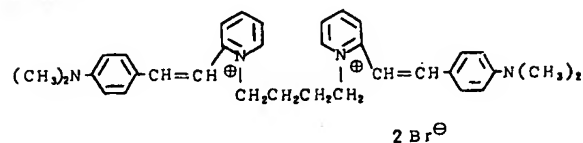
次表に、他のアルデヒドを用いた場合に得  
られる染料の色調を示す。

アルデヒド	色調
	橙
	黄
	"

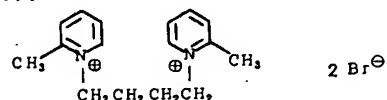
メチレン活性成分は、等モル量の α-ピコリン  
クロリド及び α-ピコリンをメチレングリ  
コール中で反応させることにより得られる。融  
点 245℃(分解)、収率 70%、塩素分析：  
計算値 19.6%、実測値 19%。

実施例 1 又は実施例 3 からのアルデヒドを用  
いると、同様の性質を有する紙用染料が得られ  
る。

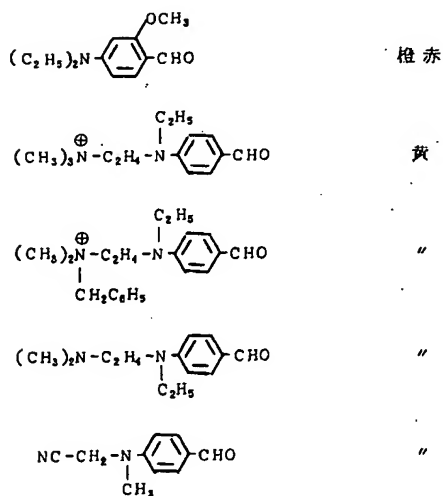
実施例 5



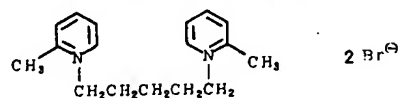
D-ジメチルアミノベンズアルデヒド 15 部  
及び次式



の四級塩 20.1 部を、エチルグリコール 50 部  
中でビベリジン触媒の存在下に 1 時間還流加熱



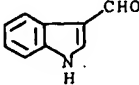
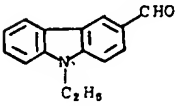
下記の四級塩を用いる場合にも、同様の使用  
技術上の性質を有する染料が得られる。

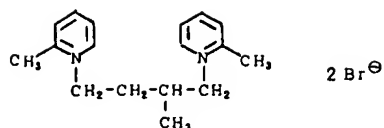


及び

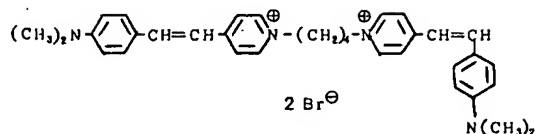


次表に示すアルデヒドを用いると、類似の染料が得られる。

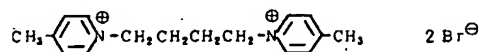
アルデヒド	色調
$(C_2H_5)_2N-C_6H_4-CHO$	赤
$H_3C_2-N(C_6H_5-CH_2)-CHO$	赤褐
	黄
	帯赤黄
$(H_3C_2)_2N-C_6H_3(OCH_3)-CHO$	帯青赤
$(CH_3)_3N^+-C_2H_4-N(C_2H_5)-C_6H_4-CHO$	橙



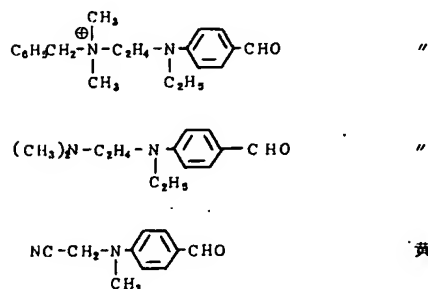
## 実施例 6



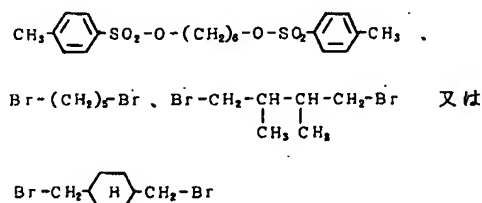
## 次式



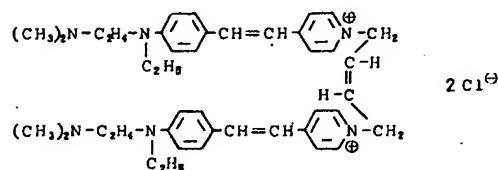
のメチレン活性化合物 20 部及び p-ジメチルアミノベンズアルデヒド 15 部を、ビペリジンを添加してエチレングリコール 50 部中で 5 分間還流加熱する。冷却したのを吸引ろ過すると、融点 297~299℃ の染料 20 部が得られる。この染料は、紙を良好な廃水値で赤色色調に実質染色する。



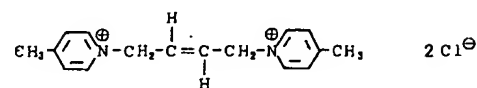
r-ピコリンの四級化のために下記の化合物を用いる場合にも、同様の性質を有する染料が得られる。



## 実施例 7

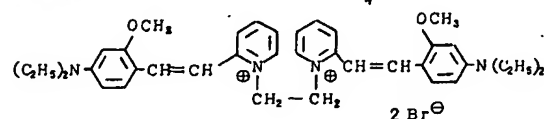


## 次式

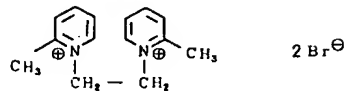


の化合物 7.8 部及び N-エチル-N-β-ジメチルアミノエチル-p-アミノベンズアルデヒド 11 部を、エタノール 50 部中でビペリジン 1 部を添加して 3 時間還流加熱し、液状染料を分別する。この染料は紙を赤色に染色する。

## 実施例 8



2-メトキシ-4-ジエチルアミノベンズアルデヒド 2.0.7 部、次式



の四級塩 1.8.7 部及びエチルグリコール 4.0 部を、ピペリジン 2 部の存在下に短時間還流加熱する。冷却し、そしてアセトンと共に摩砕することにより染料を精製すると、融点 2.95℃(分解)の染料 1.4 部が得られる。紙上の染色は帯青赤色である。

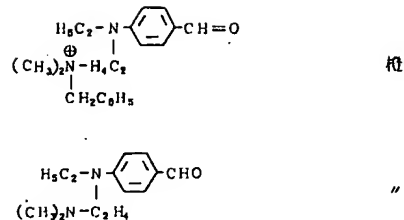
次表に示すアルデヒドを用いると、類似の染料が得られる。

アルデヒド	色調
	黄
	帯赤黄

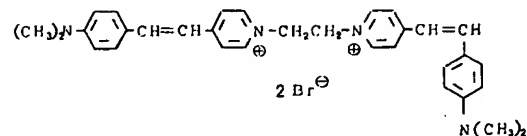
吸引ろ過し、アルコールで洗浄して乾燥すると、染料 1.5 部が得られる。紙上の色調は帯青赤色である。

同様に示すアルデヒドも用いられる。

アルデヒド	色調
	帯青赤
	赤
	褐
	帯赤黄
	橙



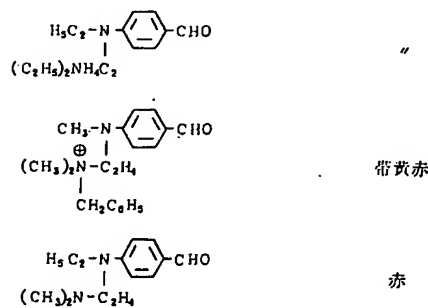
#### 実施例 9



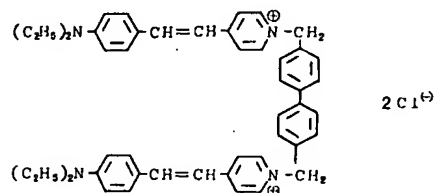
p-ジメチルアミノベンズアルデヒド 1.5 部及び次式



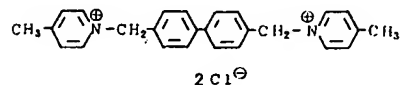
の化合物 1.8.7 部を、エチレングリコール 4.0 部中でピペリジン 2 部と共に 1 時間煮沸する。



#### 実施例 10



次式



の四級塩 1 1 部及び p-ジメチルアミノベンズアルデヒド 9 部を エタノール 5 0 部中で、ピペリジン 1 部を添加したのち 3 時間還流加熱する。アセトン 5 0 0 部中に注入し、吸引ろ過すると、融点 2 3 0 ~ 2 3 2 °C の染料 1 3 部が得られる。この染料は木質含有亜硫酸パルプ及びさらし亜硫酸パルプを赤色に染色し、両方の材料に定量的に染着する。

使用した四級塩は次のようにして製造される。4,4'-ビスクロルメチルピフェニル 1 2 6 部及びア-ピコリン 9 3 部を、エチレングリコールモノメチルエーテル 2 0 0 部中で徐々に 8 0 ~ 9 0 °C に加熱する。その際温度は迅速に上昇するので、熱を除去せねばならない。発熱反応の終了後、さらに 2 時間還流加熱し、冷却し、そしてアセトン 1 5 0 0 部で希釈する。吸引ろ過してアセトンで洗浄すると、融点 3 0 6 ~ 3 0 8 °C の染料 1 2 6 部が得られる。

同様に示すアルデヒドと反応させると、類似の染料が得られる。

アルデヒド	色調
	赤
	黄褐
	黄
	黄褐

実施例 2 からのアルデヒドと下記の四級塩とからも、同様に良好な直接染料が得られる。

